

「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」
(School-Wide Positive Behavior Support)



スクールワイド PBS

児童の「できた!」を
引き出すポジティブ支援

スクールワイド PBS を学校に導入するために



●東みよし町立加茂小学校が取り組む「かもっこスマイルプロジェクト」●

平成30年2月 徳島県教育委員会・東みよし町教育委員会

徳島県教育委員会では、ポジティブな行動支援の考え方の浸透を図るために、学校全体で取り組むポジティブな行動支援（School-Wide Positive Behavior Support 以下「スクールワイドPBS」と示す）の取組を進めています。徳島県東みよし町立加茂小学校では、「かもっこスマイルプロジェクト（KSP）」と命名し、全国に先駆けてスクールワイドPBSに取り組んでいます。本パンフレットでは、加茂小学校の取組をもとに、学校にスクールワイドPBSを導入するためのプロセスを紹介します。

加茂小学校の先生に聞きました

Q なぜスクールワイドPBSを導入してみようと思ったのですか？

A 学級経営で困っていること、悩んでいることがありました。
学級がまとまらず、ついつい叱ってしまうことが多くなりました。

1つの学級, 1人の教師でがんばっても**限界**があります。



こんな方法があります！

「スクールワイドPBS」で行動支援の方針・目標・方法を共有化

かもっこスマイルプロジェクト

ステップ4 改善

成果を数値で示して
フィードバック→ P6

ステップ3 実行

学校全体でシステム化(共有)
し、実行→ P5

ステップ2

計画の具体化

指導方法を共有
【具体的目標の実施計画表】→ P4

ステップ1

目標の設定と共有

「3つの大切」の具体化
【行動目標設定表】→ P3

スクールワイドPBSを導入した学校の効果は？

- ・ 学級に笑顔が増えます。
- ・ 学級内のルールが明確になります。
- ・ 学級が落ち着きます。
- ・ 教職員の団結力が増します。

「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」とは？

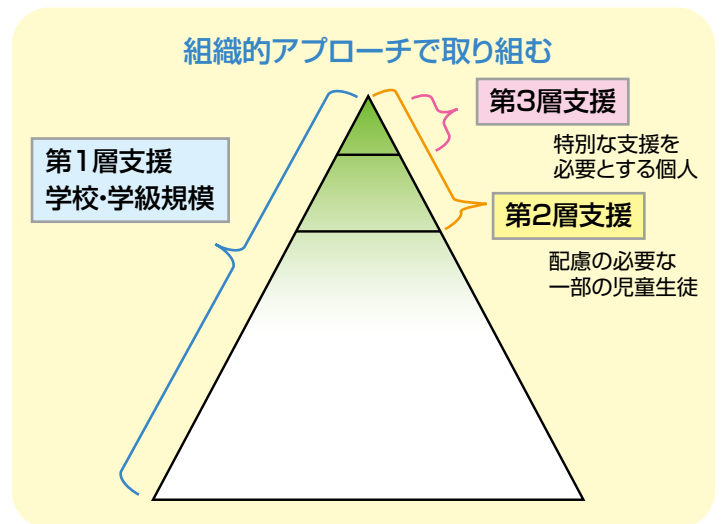
SWPBS (School-Wide Positive Behavior Support)

1 学校教育におけるポジティブな行動支援の重要性

児童生徒が示す問題行動によって、学校における本来の「学び」が成立しなくなるという事態は避けなければなりません。児童生徒の問題行動に対して、適切に支援を行い、社会性を育むことは、学校教育において児童生徒に学業を教えることと同様に重要です。問題行動を解決するためには、「問題行動を罰する」のではなく、「望ましい行動を育てる」という発想が必要です。そして望ましい行動を育てるためには、3つのポイントが不可欠です。それは、「教えること」、「承認すること」、そして「環境を整えること」です。

2 対象はすべての児童生徒

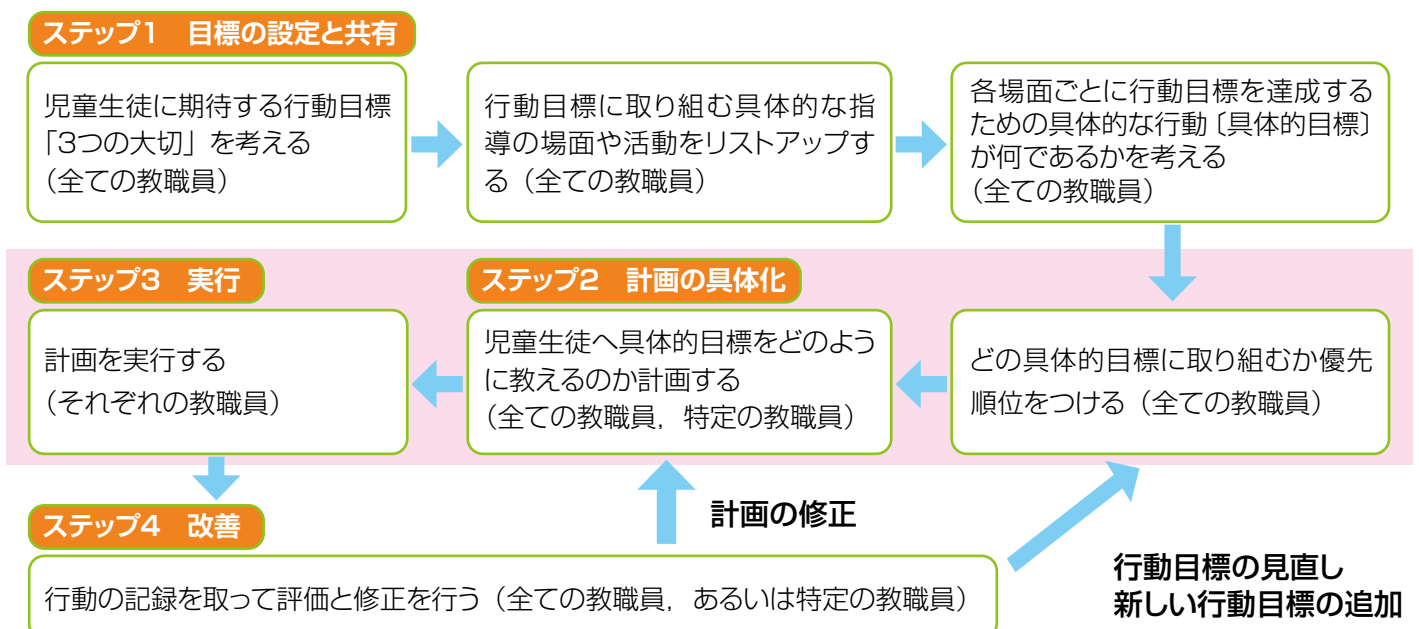
- 望ましい行動を効果的に教えること、その行動ができた際に賞賛や承認をすること、そして、適切に行動しやすい環境を整えることで、「すべての児童生徒」が、望ましい行動を学ぶことができます。
- スクールワイドPBSでは、第1層支援から第3層支援へと階層的で連続的な支援システムを設けます。第1層支援を充実させることによって、個別性の高い第2層支援や第3層支援を真に必要な児童生徒を絞り込むことが可能となり、教員の時間や労力が限られている状況において、より的確な支援を行うことができます。
- 実際に起きている問題行動を解決するための個別的な支援（第2・3層支援）だけでなく、問題行動の予防に向けた組織的アプローチを同時並行で充実させることが重要です。「すべての児童生徒」を対象とすることで、私たちは「問題の解決」だけでなく、「問題の予防」にも取り組むことができます。



3 スクールワイド PBS とは

このような考え方は、「罰を使うことなく、望ましい行動を育てる」という点で「肯定的 (Positive)」であり、「問題が起こる前から取り組む」という点で「積極的 (Proactive)」です。この2つの意味の「ポジティブな支援」を、学校規模で「すべての児童生徒」を対象として実施するアプローチが「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」です。

スクールワイド PBS 取組のフローチャート図



「3つの大切」の具体化（行動目標設定表の作成）

① 「3つの大切」を決定

全教職員は、学校の課題や児童生徒に付けたい力についてとことん話し合います。さらに、専門家からアドバイスを受けて、学校が大切にしたい「3つの大切」を決定します。

② 「指導の場面」の決定と ③ 「指導可能」な目標に具体化

全教職員が学年別のグループに分かれて、「3つの大切」の内容を指導する場面を決定したり、実際に指導可能な目標（具体的目標）に置き換えたりする作業（具体化・可視化）を、演習形式で行います。

【例】加茂小学校の行動目標設定表

① 「3つの大切」を決定

② 指導の場面を決定

	きまりを守ろう	自分も友だちも 大切にしよう	すてきなことを かけよう
授業中(教室)	☐ 授業が終わったら次の授業の準備をしよう ☐ 授業が始まる時にえんぴつ2本・赤えんぴつ1本・けしごむ1こを机の上に用意しよう	☐ 話をしている人の方へおへそを向けよう ☐ 「同じです」「そうだね」「わかりました」「うなずく」など発表している人に反応しよう	☐ 「です・ます」のような丁寧な言葉を使おう ☐ 指名されたら「はい!」と返事をしよう
体育(体育館)	☐ すばやく集合・整列しよう ☐ 使った道具は元の場所にもどそう	☐ 授業の準備や片付けを友だちと協力してやろう ☐ 相手チームのすごいところをほめる言葉で伝えよう	☐ 自分のチームが負けても「がんばろう」「ドンマイ」と声をかけよう
そうじ	☐ そうじ場所にある決められたマニュアルのとおりそうじをしよう ☐ 自分の分担場所をそうじ時間内にきれいにしよう	☐ そうじ分担をみんなで協力してやろう ☐ 自分のそうじ分担が終わったら、まだ終わっていない人を手伝おう	☐ そうじの始めと終わりに同じ分担の人とあいさつをしよう
業間休み 昼休み	☐ トイレをすませてから遊ぼう ☐ 予鈴を聞いたらずきに教室にもどろう	☐ 友だちと話をするときは「あったか言葉」を使おう ☐ 友だちの名前をよぶときは「〇〇さん」とよぼう	☐ 友だちに「ありがとう」「ごめんね」と言おう
ろうか	☐ ろうかや階段、ベランダでは右側を歩こう ☐ くつ箱のくつやトイレのスリッパをそろえよう	☐ 前から人が来てすれちがうときには「どうぞ」とゆすりあおう ☐ 人にゆずってもらったら「ありがとう」と言おう	☐ 先生やお客さんとすれちがうときには軽く頭を下げよう ☐ 学年がちがっても朝や帰りのあいさつを大きな声で言おう

③ 指導可能な目標に具体化

※□は具体的目標



学年団の話し合いの様子



Point! 全教職員で「合意」を図る!

- 加茂小学校では行動目標設定表の全ての目標の中から、児童に付けたい力を精選し、優先度の高い「挨拶」や他の場面でも良い影響が出やすい「あったか言葉」から指導を開始しました。具体化した行動目標設定表の中から、最初に取り組む具体的目標を1つずつ選び、取り組んでいきました。全教職員が児童に期待する具体的目標を共通理解し、取り組むことが大切です。

指導方法を共有（具体的目標の実施計画表）

全教職員は、具体的な指導方法を、具体的目標の実施計画表でイメージします。実施計画表の1～8に沿って指導の方向性を共有し、各学級で具体的に行動の練習を行います。ここでは「あったか言葉」を例として考えてみましょう。

1 教える行動を決めましょう

例 友だちと話をする時は、「あったか言葉」を使おう。

2 児童に伝える：「この行動を学ぶ理由」を考えましょう

- あったか言葉を言われたら、気持ちがよいから。言った人も気持ちがよいから。
- 友達との仲もよくなって、「またあったか言葉を使おう」と思えるから。（よいサイクルができる）

3 具体的な行動モデルを示しましょう

良 い 例

- 間違った時に、「いいよ。」「大丈夫だよ。」「次はできるよ。」
→間違うことが苦にならない。次もやろうと思える。
- 配付物を渡す時「どうぞ。」もらった時「ありがとう。」
- 人のうれしい話を聞く時、「よかったね。」「すごいね。」と共感する言葉。

悪 い 例

- 間違った時に「えっ!」「何してるの!」「きちんとして!」
→やる気を失う。すねる。泣く。
- 配付物を渡す時や、もらった時も無言。
- 人のうれしい話を聞く時「自慢してる?」「どうでもいいし。」
※悪い例は、児童が演じずに教師が演じる。

4 実際に練習するための具体的な計画を立てましょう

例えばロールプレイの場面を設定、授業中に「算数の答え」を間違ったという設定で行う。

→ $15 \div 3$ は?のように、答えがはっきりしている問題を提示する。

- (1) 教師が良い例と悪い例を演じる。
- (2) 児童たちが、どんな気持ちになったか考えたり発表したりすることで、あったか言葉を使う必要性に気付かせる。
- (3) 実際に、同じ場面設定で、児童が演じる。（言葉は児童が考えて、教師と同じでなくてもよい）
- (4) あったか言葉が使えていれば、「今のすごくよかったよ。」「優しいね。」と賞賛する。
悪い例の言葉が出てしまった時は、「今は、〇〇って声をかける方がいいよね。」と修正する。
- (5) ふり返りをする。

5 期待される行動の手がかりを作成しましょう

- 「あったか言葉」「チクチク言葉」というキーワードだけ掲示して、自分の言葉をふり返り意識づける。
- あったか言葉の樹を廊下の目立つところに貼り出し、あったか言葉（葉っぱ）を付けていく。
- あったか言葉を聞いたり、言えたりした回数を自分で記録しておいて、帰りの会で発表する。発表は、友達の良いところや自分がしてもらって嬉しかったことなどを発表する。
- あったか言葉を言えた回数をグラフ化して、帰りの会で賞賛する。

6 児童が自ら取り組む行動について計画しましょう

- 日記に家で使ったあったか言葉を書くようにすることで、「家でも使おう! あったか言葉大作戦」を企画する。また、学年通信、広報、校長室だよりで、家庭にも取組を知らせ、呼びかける。

7 児童の行動変容を記録する方法を計画しましょう

- あったか言葉を使えたらカードに書き、教室内のポストに投函する。取組当初は毎日実施し、徐々に回数を減らしていく。

8 望ましい行動に対する「ほめ方」を計画しましょう

- あったか言葉が使えた時に、すぐほめる。帰りの会の時に、児童のあったか言葉を学級全体にフィードバックして全体でほめる。ポストに投函されているあったか言葉のカードの数を数えてグラフ化し、その成果をほめる。

ステップ3

「3つの大切」を学校全体でシステム化(共有)し, 実行

① 具体的目標を広報し, 全教職員で取り組む

具体的目標を全校朝会等で広報し, 全クラス同時に練習を行います。



全校朝会：校長先生や児童による広報



各教室や廊下に掲示



Point！ 管理職を中心に「全教職員」で取り組む！

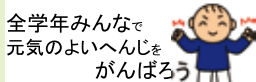
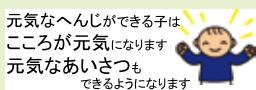
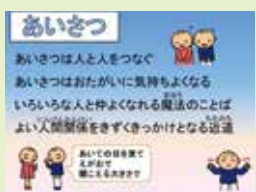
校長先生が「みんなで加茂小学校によい風(校風)をふかせましょう」と、全校朝会で「3つの大切」を実践するように、呼びかけました。また、児童による「3つの大切」を推奨する広報も行われました。各学級でも担任による指導が行われ、全児童教職員による取組がスタートしました。

全校で取り組む具体的目標

「学年が違ってても
大きな声で挨拶しよう!」

「友達と話をする時は、
あったか言葉を使おう!」

その他の具体的目標
「元気な返事をしよう!」
「聞き名人になろう!」
「校内は歩こう!」



具体的目標を教室や廊下に掲示する。



具体的目標の実践に取り組む。

全クラス同時に実施

進め方のポイント?



Point！ 学校全体の取組と各学級における取組の相乗効果をねらう！



- 行動目標設定表は、学校全体の取組であり、すべての学級で目標を共有しています。一緒に取り組む仲間(児童も、教職員も)という連帯感が生まれます。全教職員が同じ方向を向いて取り組むため、児童に対して明確で一貫した指導が行われやすくなります。

① 記録方法を決定し、指導を始める前に記録を行う。

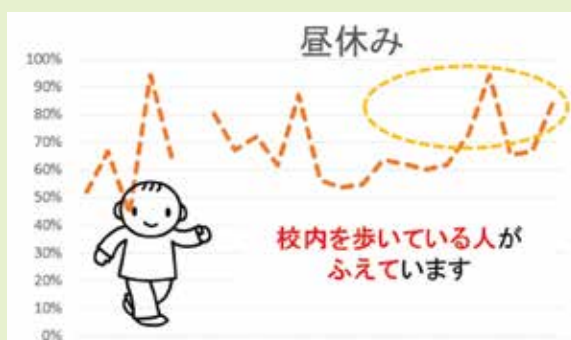
指導の効果を確認するために、具体的目標がどのくらいできるようになったか、記録する方法を決めます。指導を始める前にどのくらい具体的目標が実行されているのかを記録します（これをベースラインと言います）。

② 具体的目標の記録を取って、評価を行う。

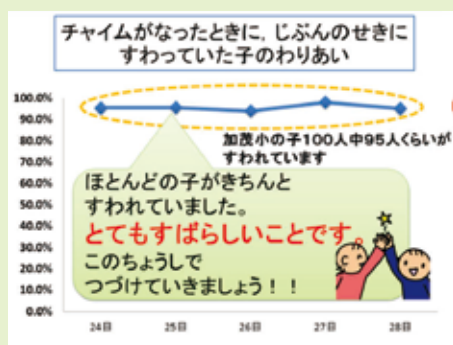
児童の行動の変化や効果を確認するために、指導後の記録を取って評価します。

③ 具体的目標に取り組んだ成果を、フィードバックする。

具体的目標の成果をグラフ化し、児童に自分たちの成長が目で見えて分かるようにします。



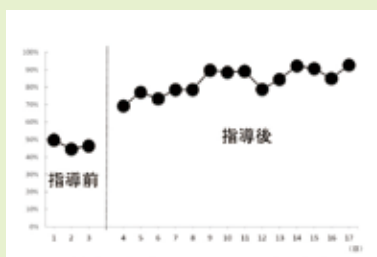
校内を歩いている児童の割合



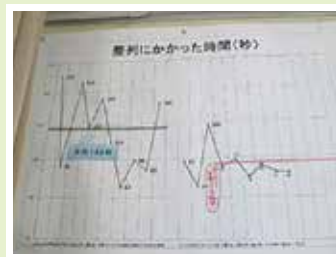
授業開始時に着席していた児童の割合



あったか言葉を全児童で共有



くつがそろっていた児童の割合



クラス全員で素早く整列した時間をフィードバックしたグラフ



掲示物

児童がよく通るところや教室に成果を掲示し、取組の成果をフィードバックします。



全校朝会

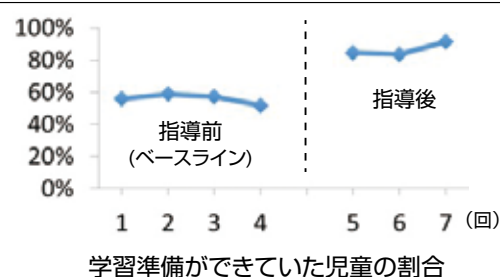
よりよい学校に改善するため、行動目標の成果を定期的にフィードバックします。



Point！ 指導の効果を確認するために、記録を取って改善へ！

●全教職員で指導の効果を確認しながら進めることが重要です。効果が少なければ、どうすれば改善できるのかを考える指標となります。記録（データ）を手がかりに指導の改善を進めることができます。

●具体的目標の記録用紙は、総合教育センターホームページ「特別支援まなびの広場」からダウンロードしてご活用ください。



学習準備ができていた児童の割合

より効果を高めるために!!

具体的目標が達成されやすくなる仕組みを作る

児童による企画・立案



具体的目標を児童に伝えるだけでなく、自発的に取り組もうとする児童を増やします。

記録の簡素化



自分から挨拶した児童の人数を数えています。

「校内は歩こう」の記録

	12/11	12/12	12/13	12/14	12/15
業 間	10/51	10/51	8/106	1/121	
履 休 み	86	101	148	5/88	5/126

※ 記録をよろしくお願いします。

職員室のホワイトボードを活用した記録例

記録は、1日のうち3時間目だけ、毎週金曜日だけ取るなど設定し、できるだけ負担を少なくします。また、児童自身が記録を取ることも取り入れましょう。

目標に向かってチャレンジ

廊下ですれ違った先生に、大きな声で挨拶してください。次の授業の始めに何人挨拶できたかを聞きます。

友達にあったか言葉を使ってください。使った言葉を帰りの会で発表してもらいます。

*スキルの宿題を出して、練習回数を増やしましょう。



既存のシステムを活用

全校朝会で、具体的目標を呼びかけ周知します。

人権集会で「あったか言葉」を取り上げます。

放送委員会で、素晴らしかった「あったか言葉」を放送します。

*既存の委員会活動などを活用して、一石二鳥を狙いましょう。



チーム「〇〇学校」で取り組む

全教職員で「行動目標設定表」を共有することにより、一貫性のある指導が可能となります。また、「記録」に基づき意思決定を行うことによって、実態に即した合理的な改善が進められます。このような仕組みがあって、全教職員でチームとして組織的に取り組むことができます。



管理職の役割

校長先生は、全校朝会などの機会がある度に児童に対して、KSPに取り組む意義や取り組んで良かった点について、お話をします。また、職員会議などで教職員に対しても同様の説明と賞賛を行います。このような校長先生のリーダーシップにより、みんなのKSPに対する理解が促進され、やる気アップにつながっていきます。



児童の主体的な活動を校内に拡げる!



1年生は、各教室を回って、「くつをそろえましょう!」と呼びかけました。



3年生は、「校内は歩く」のひろめ方を話し合いました。各教室を回って、「校内は歩きましょう!」と呼びかけたり、ポスターを掲示したりしました。



6年生は、そうじのお手本となりました。1年生から5年生は、6年生のそうじの様子を見学し、そうじの仕方や手順を学びました。



スクールワイドPBSに取り組んだ教職員や児童の変化について教えてください。



児童の良いところをみつけて、 ほめ上手になりました

- 「・・・したらダメ。」「なぜ・・・するの!」の指導を続けると、教師も児童もお互いにイライラします。「○○できています。すごい!」「いつも○○だね。素晴らしいことだよ。」と、当たり前に行っていることをほめます。今まで関わりの少なかった児童をほめることで、コミュニケーションもさらに取ることができます。児童も嬉しいし、教師も気持ちがいいです。
- 他の学級や学年の児童を注意することは、とまどうことがあります。担任は違うところを優先的に指導しているのかもしれない。でも、ほめる時はそういう心配をせず、思いのまま思いきりほめることができます。できているところを認めるKSP※¹の成果だと思います。



目標が明確になったことで よい行動が増え、 学校が落ち着きました

- 自分を認めてもらえる満足感を味わった児童は、周りの人のことも素直に認めて、よい関わりを持つことができるようになっていきます。
- 児童にとって「頑張る視点」がはっきりしているため、どう努力すればよいのかが分かりやすいです。取組前後の伸びが数値化されて、低学年の児童にも分かりやすく、児童たちの生活や学習態度も落ち着きが出てきました。
- 学校生活における様々なルールやお互いの人間関係を築くことについて、普段の指導だけでは行き届かないこともあります。しかし、全校朝会や全校の雰囲気により、児童自身が周囲の刺激を受けながら、自ら考え行動しようとしている姿を見て、KSPは凄いと感じています。



児童の主体的な活動が増えてきました

- 児童に「自分たちは、これに取り組んで頑張っている」という自覚があり、自分たちの取組の普及のために各教室を回ったり、挨拶運動をしたり、受け身の立場だった児童たちがKSPを推進、普及させる立場となりました。
- 一人をほめることで、それを聞いていた周りの児童も同じようによい行動を心がけるようになりました。たとえば授業中、教師の顔を見て一生懸命に話を聞いている児童を意識してほめると、同じように聞ける児童が増えました。「直してほしいな」というところが学級の中にあるときは、できていないことを注意するよりも、できている児童をやや大げさなくらいにほめる方が効果があるように感じました。



教職員の チーム力が 向上しました

- KSPの取組を始めたころは半信半疑で、これほど成果が出るとは思いませんでした。なぜなら、どの取組も自分が今まで学級経営で言い続けてきたことだからです。当然のことを「教職員全体で取り組むこと」がこんなにも効果があるということに身にしみて感じました。

※1 KSP（かもっこスマイルプロジェクト）は、東みよし町立加茂小学校が取り組んでいるスクールワイドPBSの略称です。
□教職員と児童の変化は、本事業に取り組んだ教職員へのアンケート結果を一部抜粋したものです。



スクールワイド PBS 導入1年目の年間スケジュール(例)



目安となる 時期・会議等	内 容	使用教材
4月1日 職員会議	スクールワイド PBS 実施に向けた校内チームを発足する。 ○スクールワイド PBS 実施のためのコアチームを作ります。 チームは、管理職、研修担当、特別支援教育コーディネーター、学年主任、学級担任などで構成します。	パンフレット
4月中旬 職員会議 校内研修会	スクールワイド PBS の共通理解を図る ○スクールワイド PBS 研修用パワーポイントに沿って研修を実施し、共通理解をします。	研修用パワーポイント
6月 校内研修会	「3つの大切」：原案を作成する (P3) ○学校内の現状を観察し、「3つの大切」と「指導の場面」を決定します。	原案作成シート
8月 夏期休業中 校内研修会	「3つの大切」を作成し、行動目標設定表を決定する (P3) ○「3つの大切」の内容を行動目標に置き換える作業を行い、決定した行動目標設定表の中から、今年度取り組む具体的な目標の案を1つから2つ決定します。	行動目標設定表
8月 夏期休業中 校内研修会	「具体的目標の実施計画表」：具体的な計画を作成する (P4) ○初年度に取り組む具体的な目標の実施計画表を1つから2つ作成します。	具体的目標の実施計画表
9月 各教室	指導を始める前に現状の記録をとる (P6) ○具体的目標が通常の指示でどれくらい見られるのかを観察し、その結果を記録シートに記録します。	記録用紙
9月 職員会議	教職員で共通理解を図る (P4) ○1つ目の具体的目標に取り組むにあたり、具体的目標の実施計画表を使って具体的な指導方法を共通理解します。	掲示物 全校朝会用 スライド 具体的目標の 実施計画表
10月 各教室 廊下など	具体的目標を校内に掲示する (P5) ○具体的目標を教室や校内の目立つところに掲示します。	掲示物
10月	全校朝会で具体的目標を広報する (P5) ○管理職は全校朝会で具体的目標を周知し、みんなで良い学校にするように広報します。	全校朝会用 スライド
10月	全学級一斉に練習する：「具体的目標」(P4, 5) ○具体的目標の実施計画表をもとに、具体的目標の練習を行います。全校朝会のスライドを活用したり、具体的スキルの練習をしたりしましょう。	掲示物 具体的目標の 実施計画表



目安となる 時期・会議等	内 容	使用教材
11月	全校朝会で具体的目標の結果をフィードバックする (P6) ○管理職は、全校朝会で具体的目標の結果を、全児童にフィードバックします。	全 校 朝 会 用 ス ラ イ ド
11月	具体的目標の結果をグラフにし、校内に掲示する (P6) ○具体的目標の結果を教室や校内の目立つ所に掲示し、児童に再度フィードバックします。	掲 示 物
11月～ 職員会議 校内研修会	指導終了後、記録をもとに効果を確認する (P6) ○具体的目標の記録を取り、そのグラフをもとに指導の効果を検討する。 ■指導の効果がみられる場合 現状の指導を継続し、指導の効果が維持している場合は、次の行動目標に進みます。 ■指導の効果がみられない場合 指導の効果がみられなかった原因を考え、新しい解決策を導入します。新しい解決策を考えられない場合や、新しい解決策を実施しても指導の効果がみられない場合は、専門機関への教育相談を行います。 〔 専門機関：徳島県立総合教育センター特別支援・相談課 〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字東谷1-7 電話 088-672-5200 〕	記 録 用 紙
11月～	2つ目の具体的目標に取り組む ○作成した具体的目標の計画表をもとに2つ目の具体的目標に取り組みます。 導入1年目は、1つから2つ程度の具体的目標に取り組むことを目指しましょう。	
2月～3月	1年間の取組を評価し、次年度に向けた改善や準備を行う ○初年度の取組を評価します。改善点があった場合は、来年度さらによりよく実施できるよう改善します。引き継ぎのために最後に取り組む具体的目標は、次年度担当教員を中心に実施します。	

● 自分の学校で取り組みたいのですが、参考になるものはありますか？

使用教材は、徳島県立総合教育センターホームページから取得できます。



- ・「特別支援まなびの広場」 <http://manabinohiroba.tokushima-ec.ed.jp/>
- ・この他にも次のような資料が公開されていますので、ホームページからダウンロードしてご活用ください。

○記録用紙

○行動目標設定表

○職員研修会用資料

○具体的目標の実施計画表

○全校朝会用スライド

○各種シート等

スクールワイドPBS

に関するQ & A

Q スクールワイドPBSは どうやって始まったのですか？

A スクールワイドPBSは、アメリカ合衆国において2000年頃から取り組み始められました。アメリカにおいては、1997年に連邦法である個別障害者教育法（Individuals with Disabilities Education Act : IDEA）の改訂によって科学的な根拠のある行動支援を実施することが法的に義務づけられるようになり、スクールワイドPBSが普及する契機となりました。今ではアメリカにおいてスクールワイドPBSに取り組んでいる学校はおよそ20,000校あります。その他の国でも、例えばオーストラリア、ノルウェー、カナダなどにおいてもスクールワイドPBSの成果が報告されています。

Q 「集団」としてのルールが強調 されすぎると、息苦しさを 感じる児童もいるのではない でしょうか？

A その通りです。しかし、スクールワイドPBSは集団統率のためのテクニックではありません。スクールワイドPBSは、児童生徒の多様性が尊重され、それぞれに個性的な個人が気持ちよく集団生活を送り、社会性を育んでいくための仕組みです。また、スクールワイドPBSは、教師の個性を尊重する仕組みでもあります。個々の教師が持つ独自のアイデアや「得意技」を引き出し、それらを「全ての児童生徒の適応の促進」という大きな目標に向け、効果的に集約して方向づけていきます。

Q 叱ることも大切だ と思うのですが？

A 望ましい行動を学ばせたい場合、「叱ること」や「罰・ペナルティ」が持つ効果とは、基本的に「行動の抑制」に限定されます。「罰やペナルティの予告」によって、適切な行動を促すことができるかもしれませんが、それは単に児童生徒が罰から逃れようとしているだけです。児童生徒が、望ましい行動を学び、社会性を身につけることにはつながりません。

Q スクールワイドPBSの 効果は？

A 日本においては、まだまだスクールワイドPBSの前例がないため、客観的・系統的な効果の検証は行われていません。しかし、海外においてはいくつかの報告があります。例えば、①児童生徒に対する懲戒の数が減る、②学校の安全度が向上する、③児童生徒の学力が向上する、④いじめが起きにくくなる、などといった成果が報告されています。また、日本においても先進的にスクールワイドPBSに取り組んだ学校からは、①教師が叱責することが減った、②子どもたちが様々なことに自発的に取り組むようになった、③保健室で「何となく体調が悪い」と訴える（不定愁訴）の頻度が減った、④学校の補修費用が減少した、などといったエピソードが報告されています。日本においても今後研究が進むことで、スクールワイドPBSの様々な効果が明らかになっていくことが期待されます。

* 本事業は、徳島県教育委員会、東みよし町教育委員会、東みよし町立加茂小学校が連携して取り組んでいます。東みよし町では平成26年より県内に先駆けて「確かな学力育成プロジェクト推進委員会」を立ち上げ、小学校と中学校のスムーズな接続を目的として、小学校での学び方を統一する取組を展開しています。その取組の一環として東みよし町スタンダード児童用「学びの手引き」と教師用「確かな学力の育成に向けて」を作成し、全児童・教職員が毎日の生活で活用しています。加茂小学校では町全体の取組を背景としながら、学習規律の向上や学力育成の具体的手段としてかもっこスマイルプロジェクト（KSP）を位置づけ、その行動目標として「学びの手引き」の内容を行動目標設定表に多く採り入れています。



パンフレットについてのお問い合わせ

徳島県立総合教育センター

〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字東谷1-7

電話 088-672-5200

E-mail : tokubetsushien@mt.tokushima-ec.ed.jp

□パンフレットは、徳島県教育委員会「発達障がい教育・自立促進アドバイザーチーム」の監修のもと作成しました。

□パンフレットは、文部科学省委託事業「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」を活用して作成しました。